清流通信「四万十川物語」

第６３章（平成１４年４月１０日）

送信者：高知県　四万十川流域振興室

TEL(088)823-9795 FAX(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十川を守ることこそ、まちづくり

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。手こぎの川舟に乗って児童が登下校する「学童の渡し」が、今年3月、120年の歴史に幕を閉じました。中村市立勝間小学校の休校に伴うものですが、新学期が始まり、子供たちは、約5km下流の小学校に元気に通っています。今回は、この春流域でスタートした2つの取り組みをご紹介します。

西土佐アウトドアクラブ（ＮＯＣ）

四万十川の保全・地域活性化のため、西土佐村に住む若者が中心となって結成しました。今後、野外活動を中心に、河川レスキュートレーニング、ゴミ集め等のイベントを企画・実行していく予定です。3年間にわたり自分達に何ができるかを考え行動してきた仲間達が、活動をさらに広げ、その考えを形にできるよう頑張っています。ＮＯＣ活動へのご支援・ご協力をお願いします。

【写真：西土佐村長生】

★四万十川清掃活動　4月14日＆15日、5月12日＆13日、10月6日＆7日。
いずれも、1日目が陸路、2日目がカヌーを利用した作業です。
詳しくは、岩本さん・堀川さん（TEL 0880-54-1330　F.F.A.内）まで。

四万十川流域住民ネットワーク　～土っ佐のアイデア in 四万十川～

四万十川中流にある佐賀取水堰（通称：家地川ダム）の水利権が更新されて、1年が経過しました。

四万十川流域住民ネットワーク（21団体）は、水利権更新時の論議を受け、「四万十川発として、清流保全、エネルギー節約、健康増進の生活様式を実践しよう。」と、チラシ 1,000枚を配布するなどの取り組みをスタートさせました。

みなさまも、今日から、四万十流の暮らしを始めてみませんか。

月	早起きの日	夜更かしは止めて！
火	NOｼｬﾝﾌﾟｰﾃﾞｰ	化学汚染から四万十川を守ろう！
水	NOﾋﾞﾆｰﾙﾃﾞｰ	買い物袋を持って行こう！
木	NO割箸ﾃﾞｰ	森の資源を大切にしよう！
金	てくてくﾃﾞｰ	車は休ませて、歩いて、疲れて・・健康。
土	NOｽﾓｰｷﾝｸﾞﾃﾞｰ	きれいな空気は、子供のため、健康のため、四万十川のため。
日	四万十川の日	家族揃って四万十川で遊ぼう！
毎日	適温ﾃﾞｰ	冷房25℃以上、暖房18℃以下

会員及び発表者募集！

四万十・流域圏学会の第2回学術研究発表会が、6月1日（土）～2日（日）、高知女子大学において開催されます。みなさまの御参加をお待ちしています。お問合せは、学会事務局（TEL 0887-57-2418　高知工科大村上研究室）又は四万十川流域振興室まで。

清流通信「四万十川物語」第64章
＜通信日＞平成14年5月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

森と木へのこだわり

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。

今回は、森と木にこだわる梼原町の「木の里づくり」についてご紹介します。

四万十川源流域に位置する梼原町は、豊かな水をつくりだすことを使命として、森林に関する施策を進めています。その代表格が、平成12年9月に制定した「森づくり基本条例」です。この条例に基づき、健全な森づくりのための間伐作業に対し、1ヘクタール当たり10万円という独自の補助を実施しています。なお、その財源は、平成11年に「四国カルスト」に設置した風力発電により確保しています。

風力発電

また、平成12年10月には、梼原町森林組合が、環境保全に配慮した森林経営に対して与えられるFSC認証を取得（団体としては国内初）しました。森づくりを進めるためには、木を使うことが必要です。この認証を受けた森林から生産される木材に新たな付加価値が生まれました。このFSC材は、学校体育館や幼稚園など、公共建築物に積極的に用いられています。今春には、三嶋神社前の四万十川支流・梼原川に“屋根付き木造歩道橋”が完成。新たな町の名所となりそうです。

屋根付き木造歩道橋

同町はこの他にも、森林の樹種や管理の違いによる保水力の調査を、高知大学と共同で平成12年から行っています。ならびに、芹川山の国有林をモデルに、平成11年3月「四万十源流森林管理協定」を締結し、広葉樹と針葉樹が混在する複層林づくりを進めています。

森と川は切っても切れない関係。森の土壌が豊かな水を育み、川を流れ、海にそそいでいます。「木の里づくり」に取り組んでいる梼原町。木を使うことは森づくりへとつながり、森は豊かな水になくてはならないものです。皆さんもこういった森づくりに対して、ご理解、ご協力をお願いします。

梼原町のホームページ→http://www.town.yusuhara.kochi.jp/

Topics

四万十・流域圏学会のご案内

四万十・流域圏学会の第2回学術研究発表会が開催されます。

●日時：6月1日（土）10時～／6月2日（日）9時～　●場所：高知県立高知女子大学ほか

＜お問い合わせ＞

四万十・流域圏学会事務局（高知工科大学村上研究室）TEL0887－57－2418

高知県文化環境部文化環境政策課　四万十川流域振興室TEL088－823－9795

清流通信 「四万十川物語」 第65章
＜通信日＞平成14年6月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

住民の顔が見える自然体験・交流拠点。

かよう大橋と四万十楽舎

里小屋

読者のみなさん、こんにちは。

今回は、「人と自然」をキーワードに地域再生を願って設立され、4年目を迎えた社団法人西土佐環境・文化センター「四万十楽舎」について、ご紹介します。

高知県中村市から、四万十川沿いを車で走ること約40分。西土佐村中半（なかば）に入ると左手に白い三角の形をした大きな「かよう大橋」が見えてきます。そして、その橋のそばに、児童が減って廃校となった地元小学校を改造した自然体験型宿泊センター「四万十楽舎」があります。

そこでの活動は、自然体験型研修宿泊事業、生涯学習事業、地域活性化研究事業の3つが核となっています。

■ 1 自然体験型研修宿泊事業

四万十楽舎のスタッフや地元の名人と共に、カヌー、イカダ下り、釣りはもちろん、水生生物観察、天体観測など、この地域の自然に関わる様々な体験ができます。

■ 2 生涯学習事業

イチゴジャムづくり、民族楽器で遊ぶなどの文化交流活動を行う「四万十小楽校」、地元の木材を活かした木工教室を開催しています。

■ 3 地域活性化研究事業

幡多地域に暮らしたいと考えている方々と地域住民との橋渡しをするため、「田舎暮らし事業部」（TEL0880-66-1763）を発足し活動しています。

❶ 里小屋オーナー制度

間伐材を使って建てた新築一軒家のオーナーになれます。自分が使わないときには、他人に有料で貸すこともできます。

❷ 田舎暮らし楽校見学会

田舎暮らしを目指す人たちのために、幡多地域のフィールドミュージアム体験楽校と見学会を開きます。

四万十楽舎のホームページ→http://www.netwave.or.jp/~gakusya/
TEL0880-54-1230

Topics

第26回高知ファミリーコーラス定期演奏会のご案内

99年の夏、高知県の委嘱として木下牧子先生に作曲していただいた混成合唱組曲「四万十川」。初演から3年、また新鮮な四万十川の景色が歌われます。

- 開催日時／平成14年6月22日（土）開場18:00開演18:30
- 開催場所／高知市文化プラザ（かるぽーと）大ホール
- 入 場 料／一般・大学生1,000円 高校生以下500円

高知ファミリーコーラスHP→http://www.i-kochi.or.jp/prv/family/

清流通信

「四万十川物語」第66章

<通信日>平成14年7月10日

<送信者>
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

四万十のいのち大集合「四万十川学遊館」オープン!

読者のみなさん、こんにちは。
今回は7月6日、高知県中村市にオープンした中村市立「四万十川学遊館」をご紹介します。

中村市トンボ自然公園の中にある「四万十トンボ自然館」が、このたび“さかな館”を新設し、トンボ・アカメと花の里「四万十川学遊館」へと大きくリニューアルしました。その名の通り、昆虫・さかな・植物など流域における“いのち”と“自然”を学び、楽しむ環境学習型文化施設となっています。

ナショナルトラストにより世界初のトンボ保護区を作り上げた、社団法人・トンボと自然を考える会（1985年12月発足・本部は中村市）は、これまでトンボと並行して四万十川の魚の調査・研究を続けてきました。その集大成として誕生したのが「四万十川学遊館」です。

木のぬくもりに包まれた館内は、展示物の見せ方・配置にまで多くの工夫がなされています。例えば、“さかな館”へと向かう階段の足下には、昆虫の標本が埋め込んでありました。上がって展示室には、向かって右手から半円を描くように水槽が並んでいるんですが、実はこれらは、四万十川の源流から河口へと蛇行する流れを表していたのです。とんぼ館を含め様々な部分に“発見”と“なるほど”があふれ、館内を回りきった時には、四万十川をより身近に感じられるようになります。

川についての知識が増えれば、川で遊ぶのがもっと楽しくなるのと同時に、川を大切にしようという心が育っていきます。そうすることで、四万十の美しい環境が守り続けられていくことでしょう。「四万十川学遊館」は新しい時代の博物館として、人間と環境とのかかわり・共生について理解と認識を深める、総合的学習・環境教育の場となることを目指しています。

四万十川学遊館のホームページ→http://www.gakuyukan.com/

Topics

山本容子の美術遊園地

版画家で四万十大使でもある山本さんの作品展。装丁本・アクセサリー・立体作品等々、初期作品から代表作品まで約300点が一堂に展示されています。

■期　　間：2002年7／21（日）～9／16（月）　■会場：高知県立美術館
■開館時間：9:00～17:00※会期中の金曜日は、夜8時まで。
■休　館　日：7／22（月）・29（月）・8／6（火）・12（月）・19（月）26（月）・9／3（火）・9（月）
■お問い合わせ先：088-866-8000
山本容子のホームページ→http://kodansha.cplaza.ne.jp/y-yamamoto/

清流通信 「四万十川物語」 第67章
＜通信日＞平成14年7月25日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

四万十川の達人『リバーマスター』!!

読者のみなさん、こんにちは。
今回は、四万十川流域で活動している「リバーマスター」についてご紹介します。

「リバーマスター」は、川漁師・カヌーインストラクター・川沿いの住民・商店の従業員など、日常的に四万十川と接している方々にお願いしており、源流（東津野村）から河口（中村市）まで、現在約110名がボランティアで活動しています。
この取り組みは、水難事故の多発や観光客が環境保全や安全確保に関する具体的な情報を得られる機会が少ないといった背景から生まれ、高知県と（財）四万十川財団を中心に、流域市町村・消防署・警察署が協力して行っています。
その活動内容は、“河川利用者に知ってもらいたい”“観光客が知りたい”情報をそれぞれの立場からお知らせし、必要に応じて注意を呼びかけるといったもので、簡単に説明すると下記の通りです。

①水難事故防止に役立つ具体的な情報の提供や注意喚起
②ゴミの持ち帰りなど、環境保全の啓発
③地域情報・道路情報（通行止めなど）・観光情報の提供　etc

西土佐村の「カヌー館」に勤め、毎年たくさんの観光客と交流している刈谷さんも『リバーマスター』の一人。四万十川のきれいな水、きれいな空気、きれいな星空を守り続けたくて、この役割を引き受けたのだそうです。刈谷さんは「私たちが持っている様々な知識や情報をお届けすることで、四万十川をもっと好きになっていただけたら、大切にしていただけたら嬉しいですね」と語っていました。

みなさんも『リバーマスター』を見かけたら、なんでも気軽に尋ねてみてください。四万十川の楽しみ方、気づいていなかった魅力に出会えると思います。

リバーマスターグッズ

ゴミのない四万十川をめざす刈谷さん

カヌー館展示場

Topics

足摺宇和海国立公園指定30周年記念
アウトドア ワンダーランド in 四国西南

この夏、愛媛から高知にかけての四国西南地域では、豊かな自然の中で家族が一緒になって楽しめるイベントが開催されます。宇和海海中公園、足摺岬、四万十川など、この機会にぜひ訪れてみてください。
●期間：平成14年7月1日～9月1日
●場所：（愛媛県）宇和島市、津島市、内海村、御荘町、城辺町、一本松町、西海町
（高知県）宿毛市、土佐清水市、中村市、大月町、大方町
詳しくは、四国西南地域観光連絡協議会　089-935-4056まで　http://www.pref.ehime.jp/seinan/

清流通信 「四万十川物語」 第68章

＜通信日＞平成14年8月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

水へのこだわり

四万十の村株式会社　岡村謙介さん

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。

今回は、大野見村の「久万秋の湧水（くまあきのわきみず）」についてご紹介します。

「久万秋の湧水」は、土佐の名水四十選のひとつ。県道19号線沿い、四万十川源流域・大野見村の久万秋地区から湧き出ています。この水は、久万秋滝山の樹木から滴る水が寄り合って硬砂岩の割れ目から湧き出したもので、大雨が降っても濁ることはなく、また、渇水時にも涸れることがないという天然ろ過された湧水です。

湧水は、天然ミネラルを豊富に含んだ軟水。そのまま飲んでも美味しく、お米を炊いたり、コーヒーを沸かす時に使うと水道水とは比べものにならないと評判です。なかには、お風呂や洗濯時にも使用している方もいるとのこと。今でも、近隣市町村からわざわざ汲みにやってくる方の姿が多く見られます。湧水は、訪れる人たちのノドを潤すばかりでなく、地域住民の生活にも大きな関わりを持ち続けているのです。

この天然水の旨味を、そのままペットボトルに詰めて商品化したのが「四万十の水紀行」。久万秋の湧水から数十mの所にある『四万十の村株式会社』が、平成3年から製造を手掛け、今では大野見村の特産品として各地で販売されています。村からは、“おらが村の会社”として大きな期待を寄せられています。四万十の村株式会社（TEL0889-57-2309）

「久万秋の湧水」のような水を育み続けるためには、まず、土壌の流出を抑制しなければなりません。それにはまず、ミネラルを供給できる豊かな土壌を生み出す森林の保全・育成に努める必要があります。また、土壌の発達に適した植生を維持・復元することも重要。水の流出経路である森林の土壌を保全・復元し続け、水の浄化機能を維持・向上させなければなりません。

水にこだわる大野見村の合言葉は、「上流をきれいにしなくてはならない」。四万十川の美しい流れを守るため、森林の適正な管理に取り組んでいます。　→大野見村のホームページ（http://www2.net-kochi.gr.jp/~onomi/）

Topics

「四万十ありのまま写真展」

ありのままの四万十川の姿。美しい面ばかりがピックアップされがちですが、それだけではないのが現実です。地域住民の方々をはじめ、多くの人々が流域について見直すきっかけとなる作品を募集しています。

■締め切り：平成14年10月15日（火）※当日消印有効
■写真展：平成14年12月～15年3月（予定）
■主催・応募先：（財）四万十川財団（TEL0880-29-0200）

「第6回漂流物拾った写真展」

海岸にある漂流物を拾って帰るのもいいけど、写真に撮って帰ってみては?ただいま、作品募集中!

■締め切り：平成14年10月1日（火）※郵送必着
■写真展：平成14年10月22日（火）～10月31日（木）
■主催・応募先：大方町砂浜美術館事務局（TEL0880-43-4915）

清流通信「四万十川物語」第69章
＜通信日＞平成14年9月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

四万十川の川舟、造り上げる舟大工。

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。
今回は、四万十川の「川舟」についてお届けします。

四万十川に浮かぶ川舟は、上流域・中流域・下流域とそれぞれ川幅・流れ・漁の違いから、その特性に応じた形態となっています。例えば、舟の先端。上・中流では二股になっていますが、下流用はそのような造りではありません。この二股は、舟の位置や方向を確保するための碇（いかり）を通すためのもので、友釣りの際に活躍します。したがって、友釣りを行わない下流では必要ないのです。ちなみに、舟の全長は下流へ行くほど長くなり、最大幅も下流へ行くほど広くなっています。

このような川舟を造っているのが舟大工さんです。四万十川中流域・幡多郡十和村在住の中脇定義さんもその一人。幼い頃から舟に触れ、先代である父の作業を見てきたという中脇さんは、指導を受けたり修行をしたわけでもないが、いつのまにか自分でも造れるようになっていたと言います。実際に乗って舟を研究しながら形を造っていくというのが、中脇さんのスタイルで、そこにはご自身の漁の経験も生かされています。驚きは、設計図を描かないということ。小さい舟でも大きい舟でも、自分の頭の中でイメージしながら工程を進め、約1ヶ月あれば完成するそうです。中脇さんの舟は、“中に水が入ってこない”と川漁師の間で評判。それはどんなに真似ようと試みても、決して盗めない技術ということでした。

昭和57年以来、舟を造り続けている中脇さん。

機能性と安全性が第一。竿一本で楽に操れる軽い舟を造っている。

魚の種類が多く漁業資源が豊富な四万十川。川で生計を立てる川漁師が現存していること、昔と変わらず木造舟が活躍していることは、全国的に見ても大変珍しいのだそうです。しかし近年は、以前と比べ魚が少なくなったため川漁師も減り、それに伴い川舟の需要も減少しています。後継者がいないこともあり、舟大工という川と共に生活してきたからこそ生まれた職業、培われてきた伝統技術が、このままでは失われる可能性があります。

中脇さんが若い頃には、四万十は魚でいっぱいだったそうです。川についてたくさんの想いを語ってくれた中脇さんは、最後にこう話してくれました。「いつまでも漁ができる川のまま、四万十川を大事にせんといかんね」。

Topics

「よさこい高知国体夏季大会」中村市で行われる競技は、「ボート」！

この競技では「直線で1000m+αの橋脚などの障害物のない水面」と「秒速15cm以下の遅い流速」が必要。したがって、この種目のほとんどは「ダム湖」で行われるのが通常ですが、四万十川は、なんとこの条件を満たしているのです!ちなみに、国際大会は2000mの直線が必要ですが、こちらもクリアしているので、この川の大きさと勾配の緩さからくる雄大なたたずまいは、まさに国際的といえます。ただ、大雨が降ると1週間は流速が安定しないので、四万十川での国体は「天候」との勝負になりそうです。（四万十太郎）　●競技期間:9月21日（土）～9月24日（火）
よさこい高知国体HP→http://www.pref.kochi.jp/~kokutai/index.html

清流通信「四万十川物語」第70章
＜通信日＞平成14年10月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

県境を越え、条例制定

――清流を守るための取り組み――

高知県では清流を後世に残すため、昨年4月、「四万十川条例」（高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例）を施行。

これを機に、県内の四万十川流域8市町村［中村市・窪川町・大正町・檮原町・東津野村・大野見村・十和村・西土佐村］でも、各流域の独自性を活かしながら、保全と活用への共通認識を深める条例づくりに取り組み始めました。

そして今年9月、窪川町の「四万十川の保全及び振興に関する条例」が施行されたのを受け、これで流域8市町村全てにおいて、統一的な条例が施行されることとなりました。

さらに、お隣の愛媛県においても同様の条例が誕生。愛媛県で四万十川支流として流れている広見川（本流とは西土佐村で合流）において、その美しい環境を守ろうと、流域の鬼北地方4町村［広見町・松野町・三間町・日吉村］で「四万十川流域の河川をきれいにする条例」が今月10月に生まれました。その内容は、高知県と同じく「生活排水対策、水質保全目標の設定、景観・生態系の保全などに努め、高知県と連携して水質の改善に取り組んでいく」といったもの。

この動きは、昨年5月、橋本高知県知事が「河川は流域全体で守ることが重要」として、加戸愛媛県知事に四万十川の環境保全への協力を求めたことが始まりでした。河川の環境保護で、2県協力しての条例制定は全国でも珍しいとのことです。

県境を越え、源流から河口まで。流域全体の自治体が足並みを揃えて取り組むこれらの条例。住民の川を大切にする気持ちが高まるよう期待されています。

Topics

驚きと感動の地元創作オペラ！「オペラ四万十」

この物語を観れば、「四万十川」を想う心がきっと1つになれるはずです。ぜひ、ご覧ください。

■日時／平成14年10月13日（日）　［昼の部］開演：13時30分　［夜の部］開演：18時30分

■会場／窪川四万十会館　■お問い合わせ先／窪川四万十会館　tel 0880-22-4777

清流通信 「四万十川物語」第71章
＜通信日＞平成14年11月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

「山の日」制定への動き

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。
今回は、村ぐるみで山の保全・活用に取り組む十和村の活動をご紹介します。

四万十川中流域に位置する十和村は、林野率約90%。近年は林業低迷などにより、山で暮らす人々の生活が圧迫され、山離れや山の荒廃、山の保水力の低下が懸念されていました。そこで、「林業関係者だけでなく、村民全体で山の使い方を見直し、山と共に生きることを再考してもらおう」と、条例づくりに取り組み、村内からボランティアで条例検討委員を募集し、委員会を開いて条例の内容などを検討。

そして今年9月、「十和村山の暮らしづくり条例」が制定されました。特徴は、村・村民・森林所有者にそれぞれの役割を求めていること。条例の第1条は「村民と行政が協働し、地域の特性を生かし、将来にわたり十和村の豊かな自然と村民の良好な生活の維持を図ることを目的とする」と謳っています。これと同時に、県内市町村において初めて独自に「山の日」（期日については年内に決まる予定）を設定しています。

■「十和村山の暮らしづくり条例」の内容
・「山の日」を制定し、森林の持つ様々な機能の普及宣伝
・山の資源を活用した暮らし、自然環境保全などに関する知識向上
・村民が身近に山と接する機会を増やす
・山に関わる人材育成
・山の環境を配慮した適切な保全・管理
・村民公募による「山の暮らしづくり会議」の設置

「山の日」を制定している県

・山梨県	8月8日	やまなし山の日
・滋賀県	10月1日	山の日
・和歌山県	11月7日	紀州・山の日

また、高知県でも「県民一人ひとりが豊かな山の恵みに感謝し、森林や森林を守る活動の重要性などに対する理解と関心を深めていただく」ことを目的として、平成15年度に「山の日」を制定できるよう取り組んでいます。これに先立って、本年度は県職員を中心としたボランティアが森林整備活動を行います。

四万十川流域では、平成14年11月23日（土）、24日（日）に東津野村船戸県有林で四万十川源流付近の清掃と植樹を行う予定です。

Topics

津野山文化のシンボル「神楽（かぐら）」

神楽は、神話を劇化したもの。梼原町の「津野山神楽」、東津野村の「津野山古式神楽」が、今年も10月下旬から11月にかけて津野山地域の神社で奉納されています。全てを舞い納めるのには約8時間を要する勇壮な踊りで、国の重要無形民俗文化財でもあります。

■問い合わせ　梼原町教育委員会　0889・65・1111（代）
東津野村教育委員会　0889・62・2311（代）

▲津野山神楽
（梼原町）

津野山古式神楽
▼（東津野村）

清流通信 「四万十川物語」 第72章
＜通信日＞平成14年12月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

沈下橋の原型「早瀬橋」

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。
今回は、川と共生する姿から、四万十川に架かる沈下橋の原型といわれる早瀬橋をご紹介します。

四万十川の第2支流・北川が流れる東津野村芳生野奈路（よしゅうのなろ）地区には、『早瀬橋』という素朴な木橋があります。これは川を挟んで向かい側の下野地区へ渡るための橋で、神社の参拝や農作業、地区の交流に欠かせない生活道として利用されています。

『早瀬橋』は全長約25m、幅60cm。橋の高さは水面から1.2m。石を積み上げた台座の上に丸太を乗せたもので、橋の両側がワイヤーで岸に繋がれています。大雨で増水した時には丸太が落ちることがありますが、水が引いた後ワイヤーをたぐり寄せ、元通りにできる仕組みとなっています。

「雨が多い地域で、その対策として先人達が生み出したのが『早瀬橋』。定かではありませんが明治時代に誕生したと伝えられており、昔から奈路地区と下野地区の双方が当番制で管理しています」とは、奈路地区の橋当番のひとりの豊田庄二さん。（東津野村役場勤務：写真上4点撮影も）

残念ながら、今年8月の大雨により『早瀬橋』は流失してしまいました。しかし、秋の神祭に間に合うようにと、11月架け替え作業を実施。作業は、11月8日に村の寄付で村有林の杉を6本伐採し、翌9日に村内の製材所で長さ・形を調整。そして10日に、両地区民が協力して4時間ほどの作業を経て完了。昭和58年以来の掛け替えとなりました。「早瀬の一本橋」は、今後もなくてはならない橋として渡られ続けます。
＊平成10年には、歌人で四万十大使の俵万智さんが取材に訪れています。

（豊田さんの短歌）　　四万十川の　神楽囃子にさそわれて
早瀬の橋の　　初渡り

Topics

カヌー愛好家の作家、野田知佑さんの絵本
「ささ舟、四万十川を行く」を描く
イラストレーター藤岡政夫さん原画展

■期間：1／7（火）まで開催
■会場：四万十川学遊館
※詳しくは、中村市トンボ自然公園
0880ー37ー4111まで

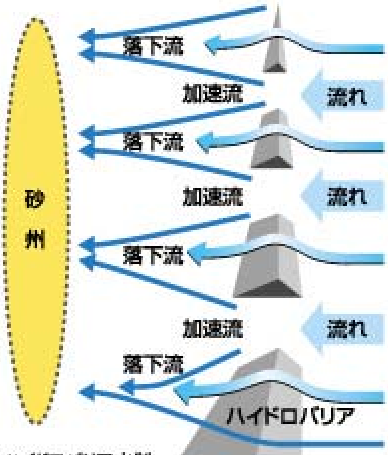
＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

近自然河川工法「ハイドロバリア水制」。

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。
今回は、ロシアで開発された「ハイドロバリア」と呼ばれる“水制工”を逆発想で改良し、河川改修に利用したという事例を紹介します。

まず“水制工”とは、川岸や堤防を河川の水による浸食等から守るために設けられた施設のことで、水の流れる方向を変えたり、勢いを弱める働きをします。
ロシアで開発された「ハイドロバリア」の場合は、川の中にコンクリートの堰を横一列に設置。スリットを抜けたそれぞれの水がぶつかり合うように計算されており、そうすることで流速を落とし、川岸に土砂が沈殿する仕組みになっています。
この水制工に目を付けたのが、（株）西日本科学技術研究所（高知市）の福留脩文氏。福留氏は流速を落とすのではなく、逆に速めるように計算して堰を配置し、その勢いで土砂が堆積してできた砂州を押し流せないかと考えました。事の発端は、四万十川と家地川の合流場所から少し下流（大正町広瀬）の治水対策。この地域には川に巨大な砂州があるため川岸や堤防の浸食が続き、棚田が流されるなどの被害が発生していました。その対策として設置されたのが、福留氏考案の改良型「ハイドロバリア水制」。完成したのは平成8年3月、日本で初めての試みでした。
これまでの治水対策を最優先した河川改修では、工事による濁水などが生態系へ悪影響を及ぼしてきました。しかし、この大正町のケースでは大きな工事が必要なかったため、自然環境にほとんど影響を与えず有害な堆積土砂を排除することができました。
このように人間が手を加えるのは最小限にとどめ、あとは自然界の力に修復を委ねるといった手法は『近自然河川工法』と呼ばれ、スイスやドイツなどの国で誕生しました。
四万十川では、土木・生物・化学などの各専門分野の人々が協力しあって技術開発を進め、「河川生態系の復元」「河川の再活性化」に取り組んでいます。

西日本科学技術研究所所長　福留脩文氏



ハイドロバリア水制

Topics

ちびっこ天狗と自然とのほのぼのファンタジー
「天狗のお山」
高知県各主要書店にて好評発売中！
定価1,000円（本体952円＋税）
作者：樫村美日（愛媛県広見町出身/高知県東津野村在住）

天狗高原へキャンプに来ていた五歳のミチコちゃんと二歳のカヤちゃんは、カラス天狗にさらわれ天狗にされてしまいました。二人のちびっこ天狗が繰り広げる、木々・魚・動物たちと心温まる交流が描かれた絵本です。ぜひお子様に読み聞かせてあげてください。

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

妖精が恋をした森と水。

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、ヤイロチョウの生息地を守る「四万十ヤイロチョウの森トラスト」をご紹介します。

ヤイロチョウの仲間は熱帯地域に分布する鳥で、夏の繁殖期になると日本に渡ってきます。地表で生活をし、非常に賢く身を隠すのが得意。声はすれどもその姿を見た人は少なく、「幻の鳥」と言われています。学名「*Pitta nympha*」の*nympha*は「妖精」という意味です。

この鳥は照葉樹林や針広混交樹林の茂る森に飛来し、日当たりのいい南斜面で、なおかつ水の豊富な場所を繁殖地として選びます。また、エサの9割以上がミミズなので、落ち葉がたくさんあることも重要なポイント。実際そういった森は少なく、日本で最も生息する条件を満たしているのが四万十川中流域の森なのだそうです。

「めだかトラスト」などの活動を行ってきた（社）高知県生態系保護協会は、平成6年から町の鳥にも指定していた大正町の森林で生態調査を開始。毎年飛来して繁殖することを確認すると、この森を恒久的な生息地として守っていくため、トラスト活動を始めました。平成14年3月からスタートした一口オーナーによる基金は目標額をクリアし、同年7月、遂に9.5ヘクタールの土地を購入。

「調査をすればするほど、ヤイロチョウが生息する“森”と“水”の素晴らしさを実感しました。ヤイロチョウがやってくるのは、その地域で最も生態系が豊かな森。そして、一年中涸れることのない水が湧く場所。ヤイロチョウは、一番の森を知っているのです。逆に言えば、私たちに教えてくれているのです。これは、なんとかして残していかなければならない。100年経っても、変わらぬ姿で残しておきたい。そんな想いから、トラスト活動を始めました」とは、中村会長。

同協会はこれからも一口オーナーの募集を続け、10年間で計100ヘクタールの森林を購入したい考え。ヤイロチョウ保護のため、森への一般立ち入りは禁止しますが、近くのダム湖にボートを浮かべ、レンジャー（監視員）によるガイドを行うなど環境保全型のウォッチングを検討しているということです。

（社）高知県生態系保護協会HP　http://www.ecokochi.org

ヤイロチョウ　*Pitta nympha*（撮影：中西和夫）

高知県生態系保護協会会長　中村滝男氏

11月20日看板の除幕式に集まった皆さん

Topics

橋本大二郎知事が高知野菜をPR！ 関東圏でテレビCM放送中 2/28迄

おいしく、新鮮で、安心な高知野菜を全国に売り出すため、全国的知名度を誇る知事自らがCMに出演。高知県の11基幹品目をコミカルに紹介している。（放送局：日本テレビ、TBS）ちなみにそれらの中で、四万十川流域で生産されている野菜は6品目もあります。★米ナス・小ナス（梼原町・西土佐村）、ピーマン・ニラ・囲いショウガ（窪川町）、シシトウ（十和村・西土佐村）　高知県園芸流通課HP　http://www.pref.kochi.jp/~engei/

清流通信 「四万十川物語」第75章
＜通信日＞平成15年3月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化環境政策課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail:shimanto@pref.kochi.jp

近自然工法を体験する「環境土木実践講座」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、「環境土木実践講座」をご紹介します。

「環境の世紀」と言われる今、国全体で自然共生型公共事業の重要性が取り上げられています。四万十川流域では、例えば道路整備では桟道工法やトンネル化、木の香る道づくりなどにより、環境への影響を最小化する手法が用いられています。そんな中、自然の営みが確保できる余地を残す近自然工法が注目されています。

そこで、高知県文化環境政策課四万十川流域振興室は、土木技術系職員が石積み技術などを実際の施工現場で体験することで、環境に配慮した技術のパワーアップを図ることを目的に、昨年11月（片地川・土佐山田町）と今年1月（国分川・南国市）で「環境土木実践講座」を開催しました。

講座は6日間の日程で、初日に治水・護岸・景観に配慮した各種河川工法への石積み技術の応用などの座学を行い、2日目は、石材単位の取り扱い技術や石積み構造物の要所ごとの施工要領についての演習。3日目から6日目までの4日間は実際の現場にて水制や根固めなどを体験しました。

「環境土木実践講座」は、平成14年度から16年度までの3年計画で実施。14年度は工事の発注者である県の土木技術系職員約40名が参加し、修了書を手にしました。なお、15年度は、受講対象者を県・市町村の土木技術系職員に広げて開催する予定です。

参加された皆さんには寒い現場でがんばっていただきました。お疲れ様でした。

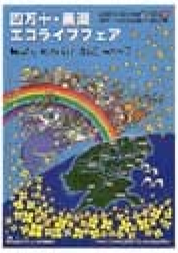
土佐山田町・片地川での実習風景

Topics

第15回Tシャツアート展
作品募集！　締め切り　3/20（木）

砂浜や海で自分が着てみたいTシャツのデザイン画を応募してください。応募作品はすべて主催者がTシャツにプリント。砂浜に展示後、あなたのオリジナル作品を海の香りと一緒にお届けします。
開催日：2003年5月1日（木）～5日（月）
場所：砂浜美術館（高知県大方町・入野の浜）
詳しくは、砂浜美術館事務局
TEL/FAX 0880-43-4915

明日の楽しく面白い四万十暮らしを見つけに行こう！
四万十・黒潮エコライフフェア



報告会や体験学習、地球に優しい生活スタイルの提案やエネルギーの使い方など、あらゆるエコ情報を発信します。お楽しみイベントも盛りだくさんの2日間ですので、春を迎えた四万十川に、ぜひお越しください。
開催日：2003年3月29日（土）/30日（日）
場所：中村赤鉄橋河川敷広場
主催：幡多地域エコフェア実行委員会
http://www.40010.net/ecolife/

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL088-823-9795 FAX088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

県民みんなで森を守る「森林環境税」

「県民参加による森林保全」の機運を高めるとともに、公益上重要で緊急に手入れが必要な森林を整備することを目的とする全国初の「森林環境税」が４月から高知県でスタートしました。

森林は、水を浄化し保水する、二酸化炭素を取り込んで地球温暖化を防ぐ、多様な生態系を支えるなど、大きな役割を果たしています。

高知県は県土の84％を森林が占めていますが、林業不況や中山間地域の過疎・高齢化などから、手入れの行き届かない荒廃した人工林が増えてきました。

その結果、水源かん養機能の低下や土壌の流出、生態系への悪影響など、森林の荒廃が県民の生活環境にかかわる問題となってきましたので、森林の公益的な働きを守るため「森林環境税」が創設されました。

この「森林環境税」では、緊急に手入れが必要な森林を県が直接強度間伐するほか、「こうち山の日」を制定するなど、県民みんなに森林への理解と関心を深めていただき、森づくりにつなげるための様々な取組みが行われます。みんなが山に行き、山の恵み、森林の良さ、また荒れ具合を肌で感じる。また、植林・間伐ボランティアなどに参加し、活動する。そうしたことを通じて、森林保全が進むことを目指しています。

■森林環境税の仕組み（詳細はhttp://www.pref.kochi.jp/ken/etc/sinzei/）

・県民税に500円を上乗せして徴収、年間約１億4000万円の税収を「森林環境保全基金」として積み立てる。

・課税期間は15年度から５年間とし、５年経過後、制度の見直し・継続を検討する。

▲第７回四万十清流の森作りキャンペーン（右も同）

Topics

西土佐村　観光カヌー開き　4月20日

豊漁と川遊びの安全を祈願する神事の後、鮎の放流やカヌーレース、カヌー体験教室が催されます。

■場所　西土佐村四万十ひろば

■問い合わせ　西土佐村観光協会　TEL0880-52-2121

中村市　かわらっこ村祭り　4月26日

アユ飯、猪汁など地元の郷土料理が味わえるほか、カヌーや草木染めの体験など、自然と触れ合うイベントが開催されます。

■場所　四万十カヌーとキャンプの里かわらっこ周辺

■問い合わせ　四万十カヌーとキャンプの里かわらっこ　TEL0880-31-8400

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第77章
通信日●平成15年5月10日

<送信者>
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

エコロジーホテル『四万十の宿』

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、中村市下田にあるリゾート型ホテル『四万十の宿』が、環境に優しいホテルとして「エコテル」の認証を受けたことを紹介します。

「ECOTEL」(エコテル)とは、アメリカの環境コンサルティング会社「HVSエコサービス社」が、EPA(米国環境保護庁)やコーネル大学の協力を得て作成した環境保護プログラム。①環境保護の法律遵守②固形廃棄物の管理③省エネルギー④節水⑤従業員教育とコミュニティー参加、といった５つの審査基準を独自に設けています。

四万十の宿は、四万十川河口に近い海を臨む自然豊かな丘陵地に立地する「四万十いやしの里」内に、昨年７月オープン。建物を設計、建築する段階から認証を目指していました。最終の現地審査として、HVS社のクリストファー・J・バルファ副社長が建物の調査、従業員の面談を行ない、雨水や太陽熱の活用、従業員への環境教育など、環境に配慮した取り組みが評価され、３月14日、世界で36番目の「エコテル」認証を受けました。国内では、「ヒルトン東京ベイ」に続く２番目の認証となりました。

豊かな自然を求めて四万十を訪れる観光客は、環境になるべく負荷のかからない方法で旅行したいというニーズを持っています。環境に負荷をかけない、自然と共生した「エコツーリズム」を推進するため、自然を最大の観光資源とする四万十でこそ、このような環境に配慮した宿泊施設がもっと増えていいのではと思います。

●お問い合わせ「四万十の宿」TEL.0880-33-1600
URL http://www.shimanto-iyashinosato.co.jp/ E-mail yoyaku@shimanto-iyashinosato.co.jp

▲四万十の宿

▲歩道には鉄道のまくら木を有効利用しました。

Topics

四万十・流域圏学会　第3回総会・学術研究発表会のお知らせ

■総会研究発表会／高知大学・朝倉キャンパス
５月31日(土)　09:30～17:30
■ユースセッション(小学生)現場体験ツアー／南国市・石土池
６月１日(日)　09:00～11:30
※お問い合わせ　四万十・流域圏学会事務局／高知工科大学システム工学科　村上研究室
TEL.0887-57-2418　URL http://kochi.cool.ne.jp/shimanto/

清流通信 Shimantogawa Monogatari 四万十川物語
第78章
通信日●平成15年6月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「第3回四万十・流域圏学会」開催

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、５月31日(土)と６月１日(日)に行われました「四万十・流域圏学会」の報告をします。

１日目は、高知大学で16件の研究発表。その中で、県立四万十高校の自然環境部が「四万十川の泡沫現象について」発表しました。四万十川では、川面に多数の“泡”を目にすることがあります。この“泡”に注目し、生活排水に含まれる洗剤(界面活性剤)が原因ではないか？と仮説を立て、源流から大正町まで約100kmの測定区間(10地点)で水質調査などを実施。その結果、“泡”の原因は「藻類の出す多糖質の可能性がある」と結論付けました。

この研究は「第46回日本学生科学賞」を受賞。また、８月に北海道の標茶高校で開催される「第４回高校生自然環境サミット」でも発表予定とのことです。

○研究の詳細http://www.kochinet.ed.jp/shimanto-h/

２日目は、場所を南国市十市の石土池に移し、小学生を対象に「イシガメを見にいこう！」というエクスカーションが行われました。台風一過の風が心地良く吹く絶好の天候となり、約60人の参加者が集合。石川妙子さん(水生生物研究家)のニホンイシガメの説明から始まり、産卵場の見学の際には、実際に産卵しているアカミミガメを発見することができ、一同歓声をあげました(静かに)。その後、水質調査やタモ網を使って水際の生き物探しを実施。小学生は、それぞれが目を輝かせながら、石土池を体感。

また、この日は四万十大使の宮崎美子さんも参加し、盛んにカメラのシャッターを押すなど、高知の自然を満喫していました。

このように学会は、四万十川をモデルに流域圏の保全・振興策を学民産官で研究、実践する場であるとともに、高校生や小学生の自然保全への関心を高めることを目指しています。

○学会ホームページhttp://www.lab.kochi-tech.ac.jp/shimanto/

▲四万十高校・自然環境部の発表者

▲四万十川でみられる泡沫現象

▲アカミミガメの産卵

▲四万十大使の宮崎美子さん

Topics

「釣りバカ日誌14」高知ロケ・四万十川にハマちゃん！

松竹の人気映画「釣りバカ日誌14」の高知ロケが、５月９日にスタート。高知城前でよさこい祭りのシーンを撮影した後、大月町の柏島、中村市の四万十川、土佐清水市での釣りシーンなど、精力的に撮影を重ね、22日に高知ロケをほぼ終了。四万十川のシーンでは中村市最上流に架かる「勝間の沈下橋」で撮影が行われ、地元住民から熱烈な歓迎を受けました。全国で９月公開予定。

清流通信
四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第79章
通信日●平成15年7月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

広がっています!! 人と地球にやさしい「環境保全型農業」

清流通信の読者の皆さん、こんにちわ。今回は、高知県環境保全型畑作振興センターを核とした「環境ISO実践農家グループ」の取り組みについて、紹介します。

高知県では、環境と調和した「人と地球にやさしい農業」の展開を通じて、食と環境と地域が調和した「環境農業県高知」の実現を目指しています。

これをリードするのが、四万十川の上流域、高岡郡窪川町にある「高知県環境保全型畑作振興センター」です。同センターは平成７年の設立以来、環境保全型農業技術の実証・展示や研修を通じ、県内の農家や農業団体などに対して「環境保全型農業」の普及・推進を目的に活動していますが、平成12年６月、環境マネジメントの国際規格「ISO14001」の認証を取得し、その普及促進にも力を注いできました。

そして、平成14年11月、同センターと県内９つの農家部会（336名）が一体となって、「ISO14001」の認証を取得し、環境ISOを実践する農家組織「環境ISO実践農家グループ」が誕生しました。

そのグループのひとつ「梼原町ISO推進営農研究会」は、四万十川の源流で、マルハナバチや、黄色蛍光灯、天敵などを使った米ナスの減農薬栽培に取り組み、化学肥料や化学農薬を減らし、環境への負荷を少なくする環境保全型農業を実践しています。グループの皆さんは「豊かな自然は私たちの宝です。これからも、地域の自然を守り、次の世代につなげるために、力を合わせて頑張りたい」と意欲的です。

また、同センターでは、「今後の農業を考えれば、環境問題を抜きにした生産活動は立ちゆかなくなると思います。四万十川流域をはじめ、県内の多くの農家さんに賛同いただいて、環境ISOや環境保全型農業の輪を拡げていきたい」と積極的な取り組みを進めています。

環境保全型農業は、四万十川流域の基本方向を示した「清流四万十川総合プラン21」にも定められていますが、四万十川の保全と流域の振興のためにも、流域全体で取り組みたい大切な課題です。

●問い合わせ　高知県環境保全型畑作振興センター TEL.0880－24－1015
URL http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/kanpo

▲認証取得した高知県環境保全型畑作振興センター

▲「梼原町ISO推進営農研究会」の皆さん。

Topics

《八田 哲スケッチ展》沈下橋・四万十の流れ展～196㎞の自然美～

京都在住の日本画家・八田哲さんが、３年間かけて完成させた、本流21、支流10の沈下橋のスケッチ画を展示。四万十川の四季折々の風情を沈下橋とともに感じてみませんか。

■会期／７月15日（火）～７月20日（日）午前10時～午後７時

■会場／ヨンデンプラザ中村　中村市大橋通６丁目９-21　TEL.0120-410-863

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第80章
通信日●平成15年7月25日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十川の美しい自然が残る「黒尊渓谷」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、「四万十川の日」特別号として、清らかな渓谷のせせらぎやブナの原生林など、四万十川の昔のままの自然が残る黒尊渓谷についてご紹介します。

西土佐村口屋内大橋のたもとで四万十川本流と合流する黒尊川。この黒尊川に沿って県道、黒尊スーパー林道を車で１時間程度走ると、水と岩と森が絶妙に組み合わされたすばらしい景観が続く「黒尊渓谷」に着きます。黒尊渓谷は、標高1226mの三本杭山麓を源にする清流で、“土佐の名水40選”、“四国のみずべ88カ所”にも選ばれています。そして、その水質は、四万十川支流の中でも最もきれいで、昔の四万十川本流を思わせるほどの透明度です。

黒尊渓谷には、八面山頂上まで約２時間の本格的な登山ルートがあり、春の新緑、秋の紅葉が美しく、四万十川の四季の自然が楽しめます。県鳥ヤイロチョウの生息地でもあります。

また、黒尊渓谷源流域には、約300haの暖温性の自然林が広がる国有林があります。樹齢200年を越えるモミ・ツガの針葉樹に、四国最西南の分布となるブナなどの広葉樹が混生する原生林です。この原生林は植物の種類が多く、かつ変化に富んでいることから学術的価値が高いということで、四万十森林管理署が「黒尊山自然観察教育林」として、施業を制限し保護しています。

さらに、今年の３月31日に、この国有林のうち約100haが、高知県から愛媛県にかけての海岸沿いに位置する「足摺宇和海国立公園」に追加指定されました。

足摺宇和海国立公園HP：http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/sanyoshikoku/ashizuri.htm

●四万十川流域振興室では、四万十川条例の第11条に定める、四万十川を保全するための方策を重点的に行う「重点地域」の指定に向けて作業をしています。黒尊川流域については、地域の生活と保全の調和を継続していく、人と自然の「共生モデル地区」として指定し、四万十川流域の目指すべき姿として、その保全を図っていくことを予定しています。

▲黒尊川源流付近

▲源流域に広がるブナ林

Topics

第53回高知市夏季大学で四万十大使・山村レイコさん講演

夏の夕べに学ぶ「高知市夏季大学」が８月１日㊎から始まります。今年は、国際ラリーストで四万十大使でもある山村レイコさんも講師陣に加わり、『大地からのメッセージ　今、どう生きる』と題して、最終日の８月22日㊎に講演の予定です。ぜひこの機会に受講してみませんか。

■会場／高知県立県民文化ホール（オレンジ）　■時間／午後６時～７時30分

●問い合わせ／（財）高知市文化振興事業団企画事業課　TEL.088-883-5061

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第81章
通信日●平成15年8月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

森にやさしい「木製治山ダム」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、環境や生態系にやさしい「木製治山ダム」について、ご紹介します。

日本一の森林面積率を持つ高知県では、平成12年、“人と木の共生”を目指して「木の文化県構想推進アクションプラン」を策定し、公共事業での木材利用に積極的に取り組んでいます。

木製治山ダムは、この取り組みの一環として、高知県須崎林業事務所が(社)高知県山林協会の技術協力を得て、四万十川源流の東津野村に整備したもので、県内では２基目です。

木製治山ダムとは、その名の通り、山を治めるための木製のダムで、土砂の流出を防ぎ、浸食により荒廃の兆しのある渓流など危険山地の崩壊を未然に防止します。

木製ダムは、これまでのコンクリート製に比べ、コストは３～４割高で、水質汚染となる防腐剤を使用していないので、耐久年数も劣り10年くらいです。

しかし、杉の木枠をブロック状に組み合わせ、中に現場周辺の石を詰め、この重量で土砂の圧力を受ける構造なので、施工が比較的簡単で、雨の多い高知県では工期の短縮が図れる利点があります。

また、木材と石材というもともと森林にある材料を用いているため、動植物が生息・生育するようになり、周辺の環境に調和していきます。

森林を間伐して、なおかつその間伐した木材を治山ダムに使って有効利用し、山を守る。木材は循環可能な資源であり、環境や生態系にやさしい自然素材です。

さらに、このような木製治山ダムが普及すれば、間伐材の有効利用につながり、地元の木材を使用するため、地域の森林整備が促進され、中山間地域の活性化にも貢献していくと考えられます。

●問い合わせ　高知県須崎林業事務所 TEL.0889－42－2371
URL　http://www.pref.kochi.jp/~seisaku/susaki/frame.html

▲東津野村新田の五藤次山

▲周辺の環境に調和

▲見学会(記念植樹)

Topics

第8回道の駅を結ぶ『四万十源流ダム湖畔めぐりサイクリング』

大正町「轟公園」から檮原町「太郎川公園」まで、ダムと自然の調和、森林や道路の果たす役割、大切さなどを学びながら、丸一日かけてサイクリングします。

■開 催 日／８月23日㈯(申込締切は８月12日㈫)
■参加資格／小学５年生以上(先着150名まで)
●問い合わせ／檮原町教育委員会☎0889-65-1350・大正町役場建設課☎0880-27-0114

<送信者>
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

田舎暮らしを体験する農家民宿「いちょうの樹」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、四万十川源流域の梼原町に開業した「雲の上の農業体験館・いちょうの樹」をご紹介します。

「いちょうの樹」は、農林漁業体験民宿に登録され、平成12年4月にオープンした県内初の農家民宿です。

オーナーの上田知子さんは、小ナスやゼンマイ、シイタケ等の複合経営農家ですが、ハウスの老朽化や野菜価格の低迷などで、これまでの農業経営に迷いを持っていました。そして、町の交流民泊事業で都市の子供たちを受け入れてきたことをきっかけに、にんじんが木に成る(?)と思っている子供や、田舎の暮らしを懐かしむ大人に、食と農の文化を体験し、楽しんでもらおうと、開業を決意。旅館業法や食品衛生法などの手続きや、囲炉裏やトイレの改造、布団など備品類の整備など、受け入れ態勢を整え、3年がかりで開業にこぎつけました。

地元の人との触れ合いやその土地の取れたての食材、そして、上田さん家族それぞれの知恵や技術を活かした、手作りのもてなしが人気を呼び、県内や東京、大阪などから、年間約700人の方が訪れ、農業体験を楽しんでいます。

四万十川流域では、大正町に農家民宿「はこば」が平成12年8月に開業し、十和村でも準備が進んでいます。

農家民宿は、過疎化の悩みを抱える中山間地域おいて、都市と農村の交流の窓口となり、農家の収入増や生きがい、やりがいにつながるものと期待されます。

□宿 泊 費 用：1泊2食付5000円～
□体験メニュー：山菜取り、田植え・稲刈り、野菜の収穫、川魚釣り、わらじ作り、こんにゃく作りなど

●問い合わせ／いちょうの樹 上田知子　TEL.0889-65-0418(FAX兼用)
URL　http://www2.inforyoma.or.jp/~siyaji/
E-mail　siyaji@ps.inforyoma.or.jp

▲上田知子さん。家の前のそば畑で。

▲皆が集う居間に、囲炉裏を設けました。

Topics

四万十川の特産品を日曜市で売っています！

四万十川の保全や地域振興などに努める(財)四万十川財団では、その活動の一環として高知市の日曜市に出店し、観光で訪れた全国の皆さんに四万十川流域の特産品を、販売・紹介しています。

■出店日時／毎月第2・4日曜日　午前7時半～午後3時
■出店場所／高知市追手筋の土佐女子中・高校前付近（四万十川財団の旗が目印です！）
●問い合わせ　(財)四万十川財団　TEL.0880-29-0200
URL http://www.shimanto.or.jp/　E-mail zaidan@shimanto.or.jp

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第83章

通信日●平成15年10月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

11月11日は「こうち山の日」

“森は海の恋人”、森林や山の土壌が豊かな水を育み、川を流れ海にそそいでいます。森は川を通じて海とつながっており、森と川も切っても切れない関係。

その森林や山の再生に向けて高知県では、「豊かな森林の恵みに感謝し、森林や山を守ることへの理解と関心を深め、県民一人ひとりが森林を守り育て、次の世代へと引き継いでいく」ことを趣旨に、11月11日を「こうち山の日」と制定。森林の大切さや今年から始まる「森林環境税」への理解や関心を深めてもらおうと、次のような推進イベントを実施します。

■森はともだちシンポジウム（入場無料）　10月19日㊐午後１時～４時30分・高知県民文化ホール
知事そして、流域からは梼原町長、アウテンボーガルト夫妻が参加。基調講演：山本一力さん

■こうち山の日制定記念イベント　11月11日㊋午前11時～・甫喜ヶ峰森林公園（土佐山田町）
こども達が山や森林に親しむ林業体験、森林環境学習などを実施します。

●問い合わせ　高知県森林局木の文化推進室　TEL.088-821-4874
URL http://www.pref.kochi.jp/^seisaku/kinobun2/hp_1/index.htm

四万十川流域でも多彩な山のイベントを計画しています。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

■10/12十和村内森林体験、10/26きのこ観察会、11/11山の日制定記念講演会／十和村☎0880-28-5111
■10/18FSC認証森林と梼原町の生活を見に行こう！／「我が家を見直す会」NPO準備会☎088-850-788
■10/18親子森林教室と間伐体験、11/16巨木･古木見学(中村市)／幡多流域林業活性化センター☎0880-34-5133
■10/25恵みの森づくりキャンペーン(東津野村)／恵みの森づくり実行委員会☎088-825-4031
■11/8 四万十の森探索、11/15黒尊川・山探索、11/下旬巨樹･巨木探索／西土佐村☎0880-52-1111

「こうち山の日」
イメージキャラクター▶

３本の樹木は「山」であり、針葉樹と広葉樹で「森」を象徴しています。
山や森を支えているのは、大地であり地球なのです。
人の暮らしは、山や森と一体であること、自然の一部であることを表現しています。

※山の日制定に際しては、大学教授、主婦、農業・漁業関係者などからなる「こうち山の日実行委員会」で議論を重ねた結果、秋ごろが望ましいとの意見がまとまり、山の日制定に関するアンケート結果から、“木が並んでいるようでよい”と支持された「11月11日」に決定しました。

四万十川流域振興室でも、山の日には、流域の東津野村へ行き、間伐や植樹など森林ボランティア活動を行う予定です。

Topics

第２回四万十川沿線環境土木技術研修会のご案内

沿線道路の景観設計、河畔林の保護工法、野生動物の保護工法など、四万十川の豊かな自然環境を保全するための各種取り組みを各機関の建設部門を担当する方々に現地で紹介すると共に、参加者の方々との意見交換を行います。

■研修期間／11月５日㊌～７日㊎の３日間　■研修費用／17,300円（予定）
●問い合わせ　高知県土木部土木企画課　URL http://www.pref.kochi.jp/^doboku/

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第84章
通信日●平成15年11月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十川で『神様の結婚式』

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、10月11、12日、土佐の小京都といわれる中村市で執り行われた『神様の結婚式』についてご紹介します。

『神様の結婚式』で知られるこの祭りは、正式には「不破(ふば)八幡宮大祭」といい、八幡宮の男みこしのもとに、四万十川河口近くにある一宮神社の女みこしが船でお嫁入りしてくるというおめでたい祭りです。応仁の乱(1467～1477年)を避け中村に逃れた前関白・一条教房(のりふさ)が、当時横行していた嫁かつぎ(略奪結婚)を戒め、結婚の神聖さや厳粛さを示すために始めたといわれています。

一宮神社には、豊作の神様「徳益御前(とくますごぜん)」、雨の神様「椎名(しいな)御前」、そしてけんかの神様「鉾名(ほこな)御前」の三体の女神がおり、毎年結婚前日の夜、神くじによって花嫁を決めるのが習わしです。今年は鉾名御前が選ばれ、12日早朝、四万十川を川舟に乗って約７km上流にある八幡宮前の船着場に到着。羽織袴姿でお迎えに上がる『船戸上げ』、女神の引き渡しを拒み困らせる『茄子(なすび)取り』、そして『三三九度』などの儀式を済ませた後、男みこしの待つ境内(通常は河川敷)へ。

一方、結婚式に先立つ８月17日に『みこし洗い』を済ませて四万十川で清められた男みこしは、市街地を練り歩く『御旅』の後、同八幡宮の境内で女みこしとご対面。「エッサ、エッサ」と掛け声も勇ましく、女みこしの周りを練り歩く『角(かく)回し』の後、いよいよ祭りのクライマックスである『輿(こし)あわせ』。互いの担ぎ棒の先端を「ドン、ドン、ドン」と３度ぶつけ合い、めでたく結婚が成立すると、大勢の見物客から祝福の拍手と歓声が沸き起こりました。

この祭りは、古文書にもとづき、古式ゆかしく伝承されており、日本の民俗でも極めて珍しい祭りとして注目を集めています。また、四万十川にはまだこのように船文化が残り、祭りの舞台として川が流域の人々の生活の一部となっています。

●お問い合わせ　中村市商工観光課　TEL.0880-34-1783

▲男女みこしをぶつけあう「輿合わせ」で結婚成立

Topics

東京・浅草で「四万十くぼかわ展」開催します!!

四万十川と隅田川は友好河川提携が結ばれています。これを縁に開催される同展は、四万十川霧の町写真コンテストの入賞作品はじめ、四万十川の地場産品販売や観光案内など多彩な内容。「元気なまち窪川町」を全国にPRします！

■期間／11月11日㊋～16日㊐　■会場／隅田公園リバーサイドギャラリー

●お問い合わせ／四万十くぼかわ展実行委員会事務局（窪川町役場企画課内）
TEL.0880－22－3124　FAX.0880－22－3123　窪川町HP http://www.kubokawa.gr.jp/

清流通信 Shimantogawa Monogatari 四万十川物語
第85章
通信日●平成15年12月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十川沿いの石垣と水田

四万十川沿いをドライブしていると、川沿いの山の斜面に石垣で築いた棚田や段々畑の美しい風景に出会えます。最近、棚田は美味しい米を作る生産の場としての役割のほかに、生態系に果たす役割、景観の文化的な価値などにも光が当てられています。そんな中で、国の文化的景観に選ばれた、十和村の石垣と水田について紹介します。

今年６月、文化庁の検討委員会では、農山村などの生活に根ざした美しい風景を守ろうと、「農林水産業に関連する文化的景観」を、「きわめて地域色が豊かで身近な存在。日本人のふるさとや心の原風景にも通じる文化遺産」と位置づけ、全国から180の重要地域を選定し、保護と保存などを提言しました。

県内では５つの地域が選ばれ、そのうち水田風景の分野で四万十川源流域・梼原町の『神在居(かんざいこ)の千枚田』が、また、土地利用や伝統的産業・生活などの複合景観の分野で『四万十川』が選ばれました。

十和村の石垣と水田は、「伝統的な漁業、農業、集落及び祭り等が、美しい四万十川を背景として一連の景観を形成している」として評価された『四万十川』の複合景観の一つとして選ばれました。ほかに、沈下橋と秋祭り(西土佐村)、四万十川源流一本橋(東津野村)、鮎漁・火振り漁(窪川町)、落ち鮎漁・ゴリ漁(中村市)が選ばれています。

十和村は面積の９割以上を山林が占め、平地はわずかしかありません。石垣は、この険しい山峡に少しでも耕地を増やそうと先人たちが自然と共生しながら築き上げた知恵の結晶で、小野地区の水田や広井地区の茶畑など、昔ながらの石垣の風景が村内の至る所に残されています。

中でも県内有数の茶どころでもある広井地区では、ここで手摘みされたお茶を商品化(しまんと緑茶など)し、売上の一部を茶畑の管理費用に充てるなど、段々畑の保全に集落ぐるみで取り組んでいます。

●しまんと緑茶　広井茶生産組合
TEL.0880－28－5527

▲十和村の石垣と棚田

Topics

四万十川の鮎を中心とした、CD付き写真集「あゆ」

『あゆ』と題された本は、高知県出身で現在大阪府在住の高野弘さんが昨年発行した“ミュージック・フォト・ブック”です。鮎の一生を追った写真だけでなく、オリジナル曲『四万十川のほとりで』など３曲収録CD付き。世界最大の本の見本市『フランクフルト・ブック・フェア』に今年10月出展し、多くの好評を得て、ドイツの出版社でも出版される予定です。

●詳しくは URL http://www.takanohiroshi.com

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第86章
通信日●平成16年1月10日

<送信者>
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十川の冬の風物詩・天然アオノリ

厳寒の四万十川河口で、冬の風物詩として知られる天然アオノリの収穫がシーズンを迎えようとしています。今回は、鮎と並び四万十川を代表する産物、天然アオノリについてお伝えします。

アオノリは、海水と真水が混じる汽水域に育つノリで、学名は緑藻類スジアオノリ。糸状の水生植物で、川底の小石に自生しますが、日の光がたっぷりと届く水深と清澄さ、水温、塩分濃度、栄養分などの微妙なバランスが必要で、葉体が長く、香りがあり、濃い緑色の良質なものは、こういった微妙な条件が維持されている限られたところでしか生育しません。清流の真水と、太平洋からの海水が混じりあう四万十川河口は、このアオノリの絶好の漁場で、天然物の産地として知られるのは、全国でもこの川だけになってしまったといわれています。漁期は、通常12月から３月頃ですが、ここ数年は生育が遅れ気味で、今シーズンも年明けからようやく川底に緑が見え始めました。

アオノリ漁は、作業のしやすい干潮時に、川舟に乗ったり、冷たい水に腰までつかって、竹ざおの先にくしのような金具のついた「アオノリかぎ」で川底をひっかいて採ります。干し方もポイントで、冷たい川風が吹き抜ける河原で天日干しにされたアオノリは、太陽と寒風に磨かれることにより香りがぐんと深まり旨みも増すといわれます。こうして上質の味わいに仕上がったアオノリは、粉末にして高級ふりかけにしたり、せんべいや餅に練りこんだり、また、原藻のままでさっとあぶり醤油をたらしてあつあつご飯にかけたり、料亭などでは天ぷらや寄せものなどにも使われます。

全国シェアの大半を占め、年間50～60トン採れた四万十川の天然アオノリも、徐々に減りはじめ、ここ数年は収量が激減しています。地元の川漁師さんたちは、この清流の恵みを次の世代に手渡していくために、また、この希少な味わいを幻としないために、四万十川の清流保全はもとより、水質調査の実施など官民一体となった取り組みを進めています。

●お問い合わせ　中村市農林水産課　TEL.0880-34-1111㈹

▲天然アオノリの収穫風景

▲河川敷でのアオノリ干し

Topics

暁の望郷賦『四万十川幻想』開催中

大方町出身の作家・上林暁の小説「四万十川幻想」より、四万十川にちなんだ短編小説５編を取り上げた企画展。脳出血のため左手で書かれた暁の直筆原稿や同作品にまつわるエピソードなども紹介。この機会に四万十川への尽きぬ思いをつづった上林文学に触れてみませんか。

●幡多郡大方町入野「大方あかつき館」にて３月31日(水)まで

●お問い合わせ／大方あかつき館内「上林暁文学館」 TEL.0880-43-2110

清流通信 Shimantogawa Monogatari 第87章 四万十川物語
通信日●平成16年2月10日

<送信者>
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

もうひとつのお金「ウェス土佐」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、停滞する村の経済を活性化させようとスタートした西土佐村地域流通商品券「ウェス土佐」についてご紹介します。

「ウェス土佐」は、地域通貨をモデルにした、全国でも珍しい循環型商品券で、西土佐村商工会が平成14年12月に発行を開始して１年余りを経過、今年で２年目を迎えました。

発行のきっかけは、県の13年度県民消費動向調査で、村民の村内商店利用率がわずか29.8％という低い数値が出たためです。人口減で消費自体が減少している上に、近隣の中村市や愛媛県への大型店進出により、今後もさらなる低下が危惧されることから、消費の村外流出防止策として始まりました。

「ウェス土佐」は、誰でも手に入れることができ、取扱店はいつでも現金化（手数料１％要）できます。また、利用は券裏面に署名し何度でも使える点が一般の商品券とも異なります。額面は１枚１千円の１種類。消費者が村商工会から購入し、村内の商店（取扱店）での支払いに利用し、受け取った商店は今度は自分の買い物で利用する。村内限定の商品券ですから、このように繰り返し流通し続けることで、村内にお金がとどまる仕組みです。

村商工会は昨年１年間で約544万円分を発行。平均流通回数が2.2回でしたから、約1,200万円のお金が村外に流出することを防げたことになります。スタート時に40軒だった取扱店も現在は58軒と増加し、中には「ウェス土佐」利用の方に割引やスタンプサービスなどの特典をつけて利用促進を図っている店も多くあります。

地域通貨は全国各地で流通していますが、「村の経済的効果に特化した商品券として、ここまで通貨に近いものは異例」ということで注目を集め、県外の商工団体の視察も相次いでいます。

村商工会は「将来的には行政にも協力いただき、公共料金の支払いや公共事業の代金の一部にも使用できるなど、利用の幅を広げることで村の経済活性化につなげたい」と意欲的です。

●お問い合わせ　西土佐村商工会　TEL.0880－52－1276　http://www.gallery.ne.jp/~nisitsci/

▲地域流通商品券「ウェス土佐」

▲移動販売車でも利用できます

Topics

「こうち山の日」を日本酒で応援

「こうち山の日」（11月11日）のキャッチフレーズを銘柄にした日本酒「森はともだち」を須崎市の酒店が発売しました。四万十川源流域で栽培された無農薬米や伏流水で仕込んだ純米吟醸酒で、売上の１%が森林保全活動を行っている「NPO土佐の森・救援隊」に寄付されます。

●お問い合わせ／須崎市「酒のとくひさ」 TEL.0889-42-0304

清流通信
Shimantogawa Monogatari
第88章
通信日●平成16年3月10日

四万十川物語

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十大使の「森は海の恋人」講演

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、２月24日に大野見中学校、窪川中学校で行われました畠山重篤四万十大使の講演についてご紹介します。

畠山さんには平成12年より四万十大使として、四万十川流域の中高校で講演を行っていただき、今年４年目で流域８市町村を巡回しました。

「森は海の恋人」と題された講演では、非常に興味深い話がありました。以下に抜粋してご紹介します。

●東京湾と鹿児島湾の大きさはほぼ同じで、鹿児島湾の方が青く美しいのに、魚や貝の漁獲量は東京湾の方が30倍ほど獲れる。その理由は、東京湾は16本の川が流れ込んでおり、淡水と海水が入り混じった汽水域である。一方、鹿児島湾は桜島の噴火の影響でできたものであるため、川が運ぶ森林の恵みを享受できていないのだ。

●四万十川の河口沖に鯨がいるのは、好物のカタクチイワシがいるからで、そのカタクチイワシの幼魚の貴重な餌になっているのは、森林から流れてくる葉っぱに付く「ヤブレツボカビ」というバクテリアの一種である。ゆえに四万十川流域の森林が鯨を呼んでいるのだ。

●海には、大気の50倍の炭酸ガスが含まれており、その炭酸ガスを酸素に変えているのが、汽水域の植物性プランクトンと海藻である。その光合成の能力は、地球上の全森林の２倍程度あり、海の中に大森林があると近年言われだした。海の大森林が弱化してくると、海から炭酸ガスが出てくることになり、こうなると地球の温暖化が急速に進むことになる。

●森がどんなに大きく育っても、川の流域に暮らす人々の自然に対する意識が変わらなければ、川も海もよくならない。

生徒たちは、身近な話から世界的な環境問題まで関連付けられた畠山さんの講演に聴きいっていました。

▲大野見中学校での講演

Topics

物部川流域「こんなんやりゆう」発表会のお知らせ

物部川流域での環境保全活動の発表会を行ないます。午前中は、畠山四万十大使と滋賀県でなたね油の循環サイクルを提唱する「菜の花プロジェクト」の藤井絢子さんの講演。午後は発表会です。

●日時：３月21日(日)10：00～17：00
●場所：のいちふれあいセンター
●お問い合わせ：高知県環境保全課環境管理班　TEL.088-823-9686

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第89章
通信日●平成16年4月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

『四万十まるごと博物館』

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、高知県が進める「こうちフィールドミュージアム」構想の一環として、四万十川流域全体を一つの博物館（ミュージアム）として見立てた『四万十まるごと博物館』についてご紹介します。

四万十川は、清らかな流れ、そこに生きる動植物など、豊かな自然に恵まれています。こうした自然や文化、歴史を地域資源として守りながら活かしていくのが『四万十まるごと博物館』です。

流域の住民、そして流域にある様々なフィールドや活動団体・施設を、自然体験や交流の場として活用し、また、それぞれが連携して相互に活用できるようにネットワークづくりを行うものです。

流域の住民が主体となって、地域資源を発見し、情報発信することによって、流域内外との情報交流・人的交流を行い、流域の保全、地域資源を活かした地域振興を行うことを目的としています。

《主な取り組み》

●体験プログラムの開発とモニター旅行の実施

体験学習型修学旅行を行う学校や、グリーンツーリズムの旅行者、環境保全に関心を持つグループなどを迎え入れることができる新しい場づくりを進めています。

●四万十まるごと博物館のホームページ運営

四万十川流域の今や昔の自然・人・暮らしなどを紹介するこのサイトは、流域の住民らによる積極的な地域資源の掘り起こしにより、発信情報件数も本年３月現在でスポット紹介520件、歴史情報581件、行事予定164件、掲示板投稿790件となりました。

皆さんもぜひ『四万十まるごと博物館』を訪ねてみてください。四万十川の新しい楽しみ方、今まで気づかなかった魅力に出会えると思います。

▲『四万十まるごと博物館』のホームページ
http://40010.tv

▲体験モニター旅行
西土佐村黒尊川源流・お菊の滝

Topics

四万十川（shimanto river）のホームページのリニューアル

四万十川流域振興室が運営していますホームページの更新を行いました。四万十川の紹介や、四万十川を後世に引き継ぐための取り組みなどを紹介しています。平成９年９月の開設から現在までのアクセス件数は、約106,000件です。なお、清流通信のバックナンバーも掲載しています。

アドレス　http://www.pref.kochi.jp/~shimanto

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第90章
通信日●平成16年5月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

東津野村の「どんぐり農園グリューネ」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は四万十川源流域に位置する東津野村でポット苗木などを栽培・販売している「どんぐり農園グリューネ」を紹介します。

「どんぐり農園グリューネ」は、①東津野村や村外の企業や自治体に販売する緑化木のポット苗木づくり、②村内の公道や公共施設に植樹する花づくりを行っています。現在、６～７人の障害者の方と指導員、そして補助の方数名で花木の苗を栽培しています。

「栽培している苗木は、四万十川流域で取れる『どんぐり』から育て、また、樹木の多様性も考え、コナラ、クヌギ、イロハモミジ、ケヤキなど20種以上の広葉樹を中心に栽培しています。私たちの事業が少しでも、豊かな森づくりに貢献できたらと考えています。一方、小規模な作業所ですが、年間約６千本の出荷を行っており、経営自体も黒字で推移しています。出荷した苗木は高知県が実施している『木の香る道づくり事業』において、道路工事などで削られた山肌に移植されています。関係者の方々からグリューネの苗木は定着率がいいと褒めていただいています」と指導員の戸田さん。

平成13年から、㈳国土緑化推進機構の緑の募金を活用して、地元の東津野村で、「恵みの森づくり事業」を行いました。苗を「どんぐり農園グリューネ」が出荷し、地域の小学生を含む緑のボランティアの協力により、昆虫が集まりやすい木を中心に、３年間で2000本を植樹しました。

グリューネとは、ドイツ語で「緑」の意味です。人の心と暮らしの中に息づく森づくりを地域の種から再生していこうとする願いを込めています。

●お問い合わせ　東津野村役場住民福祉課保健福祉係　TEL0889-62-2313
どんぐり農園事務所　TEL0889-62-3280

▲ポット苗を使った『木の香る道づくり事業』

▲定着のよいポット苗木

Topics

四万十・流域圏学会　第４回総会・学術研究会のお知らせ

●総会研究発表会：高知工科大学・B101 ―― ５月29日(土)　9：00～17：30
●ユースセッション(小学生)現場体験ツアー：南国市・石土池 ― ５月30日(日) 10：00～12：00
※四万十・流域圏学会事務局：高知工科大学システム工学科　村上研究室
TEL0887-57-2418　URL http://kochi.cool.ne.jp/shimanto

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第91章
通信日●平成16年6月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

浮島を使って水質浄化

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、四万十川中流域の窪川町でナスを養液栽培している田井さんご夫婦が独自に取り組んでいる浮島を使った水質浄化について紹介します。

田井さんご夫婦は、平成10年から環境にやさしい農業を目指してロックウール栽培を始めました。「減農薬、蜂、天敵など積極的に取り入れましたが、廃液の処理の問題が残りました。養分を含んだ廃液をそのまま川に流すことに抵抗を感じ、何とか農家らしい処理をしたいと思い、県の環境保全型畑作振興センターからアドバイスを受け、ハウスの隣へ浮島を使った浄化池を造ることにしました。浮島は、植物をのせた『イカダ』です。（この植物によって廃液を浄化します）まず、池造りから始め、独自でアレンジした浮島を造りました。最初は効果が得られず苦労もしましたが、植物の数を増やしたり、池を広げることで、効果が出ました」と、夫の田井和広さんは熱く語ってくれました。

浄化池では、ミズユキノシタ、パピルス、オオフサモなどが青々と育ち、メダカやカエルなどが泳いでいます。この時期、植物はどんどん生長しますが、茂りすぎた植物は、浮島から取り除き、黒いシートをかけて、たい肥化します。

田井さんのハウスでは、清らかな水でナスを栽培し、栽培後は廃液となりますが、浮島での浄化によりきれいな水になって、四万十川に戻っていきます。

今年度からは、廃液を浄化するだけでなく、浄化した後の植物を使って環境学習にも取り組んでいます。地元の小学校で、浄化池のパピルスを使って子供たちと紙を漉く予定です。

●お問い合わせ　高知県文化推進課四万十川流域振興室　TEL088-823-9795

▲浮島ハウス内

▲根っこも大きく成長。

Topics

英語で四万十川中流域を紹介

大正町と十和村の中学校・高等学校の計６校の生徒たちが、英語で両町村の伝統文化や観光スポットなどを紹介するリーフレット（Ａ４判、６ページ）を2,000部作製しました。

両町村は平成13年より中高一貫教育に取り組んでおり、大正町の１高校・３中学校、十和村の２中学校が各校１ページずつ担当し、文章だけでなく、写真撮影やイラストまで生徒達が行いました。両町村の観光施設などに置かれ、国際交流にも一役買っています。

清流通信
Shimantogawa Monogatari
四万十川物語
第92章
通信日●平成16年7月10日

<送信者>
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「身近な川の環境調査実施事業」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は高知県が実施している「身近な川の環境調査実施事業」を紹介します。

この事業は、流域の中高生や住民の方々が四万十川の水環境を調査することにより、身近にある川に関心を持っていただき、その活動を通して、環境にやさしい暮らしを行っていただくことを目的としています。

四万十川条例では、「清流基準」を設け四万十川の水質を見守っていくこととしていますが、住民の皆さんには、清流度（川を水平方向に見通した透明性を表す）と水生生物について調査していただいています。本年度は、流域の４高校（幡多農業高校、中村高校西土佐分校、四万十高校、窪川高校）と西土佐の住民グループ（しゃえんじり、奈路子供会）が参加してくださっています。

先月16日には、幡多農業高校の生徒６人による調査が四万十川下流域の具同で行われました。清流度は測定者が清流度計を通して水中を水平方向に目視し、もう一人が持っている黒色の円盤が見えなくなった時の２人の間の距離（メートル）を測定したものです。この日の清流度は2.7mで、過去の値とほぼ同じでした。この地点は四万十川の下流で、潮の影響を受けたり、夏場ということで値が低いですが、上流では約13m、支流の黒尊川では約20mを観測することもあります。

水生生物の調査は、石の裏側や川底にいる水生生物を採取し、その種類やスコア値（清流にすむとされる生物はスコア値が高く、汚れた環境でもすめる生物はスコア値が低い）に分類して判定します。この日は「大変きれいな水」と判定され、過去の値より良くなっていました。

高校生からは「自分の知らん昆虫が、身近な川に沢山おることに驚いた」、「自分が思いよったより、四万十川がきれいやった。もっと、きれいにするために、自分たちがやれることを調べてみたい」などの感想を聞くことができました。

地域の方々が調査されたデータは、17年度から四万十川のホームページで公表し、四万十川の姿を発信していきます。

●お問い合わせ　四万十川流域振興室　TEL088-823-9795

▲清流度測定

▲水生生物調査

Topics

第９回四万十源流ダム湖畔めぐりサイクリング

四万十川の支流・梼原川にあるダム湖畔を両町の道の駅で結ぶコースでサイクリングを行います。

●日時：平成16年８月28日(土)10：00～17：30

●会場：梼原町太郎川公園(道の駅)～大正町轟公園(道の駅)　57.1km

●参加料：小学・中学・高校生 1,000円　一般 2,000円　先着150名

●お問い合わせ：梼原町環境整備課　TEL 0889-65-1111

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第93章
通信日●平成16年7月30日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

流域が一丸となって「四万十川一斉清掃」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、７月25日「四万十川の日」に行われました四万十川一斉清掃について報告します。

四万十川流域の８市町村では、「日本最後の清流」と言われる四万十川を保全し、後世に残していくために、毎年各地域で四万十川の清掃を実施しています。

７月25日は、平成６年のこの日に「渡川」から「四万十川」に正式に名称変更されたことを記念して「四万十川の日」と高知県では制定しており、ちょうど日曜日となった今年は、上流から下流まで一斉に清掃を行いました。

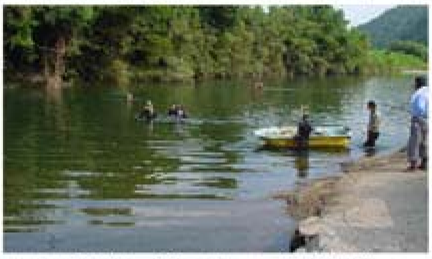
当日は、全流域で約7,000人の住民やボランティアの方々が参加されました。上流域の窪川町・大井野河原では、早朝から100人を超える方々が集まり、前田窪川町長の「河川環境保全の輪を広げて、清らかな清流を次世代につなげましょう」との挨拶の後、清掃を始めました。長年参加されている方によると、保全意識の高まりからか、以前より捨てられるゴミの量は減っているとのことですが、キャンプ後のバーベキューの残飯や花火の燃えカスなどが多く、中には粗大ごみも捨てられており、ボランティアの方々もがっかりしていました。

下流域の中村市では歌手の白井貴子さんが、その他の町村でも県内外から遊びに来られていた観光客の方々が清掃に参加され、四万十川の環境保全に大いに貢献してくださいました。南国市から参加した小学生は「毎年、四万十川には来ています。清掃は初めてだけど、これからは川で楽しんだ後は、川に感謝してチリを落とさないようにします」と話してくれました。

四万十川の美しい清流を守る基本は、一人一人の自覚と行動です。これからも、四万十川の一斉清掃を続け、この想いが広く定着するように呼びかけていきたいと思います。

●お問い合わせ　（財）四万十川財団　TEL0880-29-0200

▲窪川町・大井野河原に集まったボランティア


▲大野見村・川の中での清掃作業

▲キャンプで楽しんでいた家族も参加

▲中村市・収集したごみはトラックへ

Topics

「雲の上でいただきます」

四万十川上流域・梼原町の伝統食を後世に伝えていこうと、町がレシピ集「雲の上でいただきます」を発行(B5版、144ページ)。地元の女性たちが編さん委員となり、山菜料理を中心に約80種の調理法を掲載、こんにゃくなどの作り方や木の弁当箱など、山里の食文化や昔ながらの道具をカラー写真入りで紹介しています。町民の方には一部500円、町外の方には1,500円で販売しています。

●お問い合わせ／梼原町保健福祉支援センター　TEL 0889-65-1170

清流通信 四万十川物語
Shimantogawa Monogatari
第94章
通信日●平成16年8月10日

＜送信者＞
高知県文化環境部文化推進課
四万十川流域振興室
TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296
E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十の森と水と炎の祭典「もみほ」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、四万十川中流域の西土佐村で、村の活性化を図ることを目的に始まった「もみほ」の活動についてご紹介します。

「もみほ」は、平成14年２月に、西土佐村のモノ作りの好きな人たちが集まって結成された組織で、地域の象徴であり、グループの活動の原点でもある「森」「水」「炎」の頭文字から名付けられました。会員は、田舎料理の名人や、カヌーの達人、鍛冶職人、炭焼き、木工、竹細工師など、村の各分野で活躍する専門家８人です。『自分・人・地域づくり』、『特産品・地域の宝づくり』、『多くの人との出会いの場づくり』を基本として、四万十川の自然や、地域に昔から根付いている技術や文化を保護し、次の世代に引き継ぎ、地域の活性化につなげていこうと、様々な取り組みを実践されています。

●四万十の森と水と炎の祭典／「もみほ」最大のイベントで、年２回ほど開催。体験教室を通して地域の伝統や文化を伝承し、楽しく語り合う交流イベントです。今年は、７月11日に「草木染」の体験教室を開催しました。大変好評だったため、秋にも行う予定です。
●くっちゃべる会／毎月１回、地元の旬の食材を味わいながら、村内外の人たちと交流。
●もみほ教室／会員や地域の人が先生となり、地域の伝統技術や文化を互いに学び教え合う教室。
●特産品開発／村の素材を利用し、会員各自の知恵や特技を活かした特産品づくり。etc.

▲もみほ竹細工体験教室

▲もみほ習字教室

10月９日には、四万十川の河原で「特産品開発」と「元気の出る村づくり」をテーマに、青空シンポジウムを開催予定です。山川の幸を使った栗ごはんや鮎料理などの試食イベントも行うそうです。ぜひこの機会に、もみほの集いに参加してみませんか。

●お問い合わせ／味の館(午前中) TEL.0880-54-1198
URL http://morimizuho.hp.infoseek.co.jp

Topics

四万十川河口の中村市で「大文字の送り火」

中村市間崎地区の盆行事で、小京都中村市に夏の終わりを告げる風物詩。約500年前、応仁の乱を逃れて中村に下った一条教房の息子、房家が一族の精霊を慰め、都を懐かしんで始めたと伝えられ、旧暦の７月16日に山の神を祭っている十代地山の中腹に松明を灯します。

●日時／場所：８月31日(火)19時過ぎくらいから／中村市間崎(中村駅より車で15分)
●お問い合わせ：中村市商工観光課　TEL.0880-34-1783